



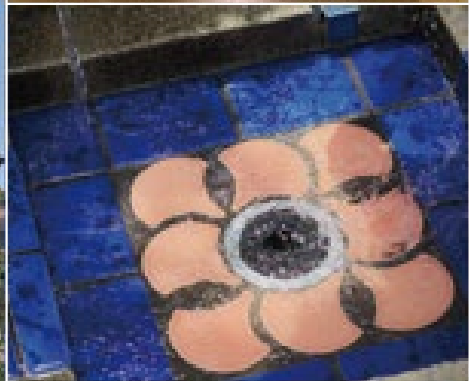
INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

# NEWS LETTER

特集 ライブミュージアム  
植物図鑑

vol. **44** | 季刊 夏  
2017



# CONTENTS

INAXライブミュージアム  
NEWS LETTER

vol.44 | 季刊 夏 | 2017

〈表紙写真〉

3	1
4	2

- 1 「完成! 常滑ガウディ」展 (07P参照)
- 2 いよいよ夏。「土・どろんこ広場」の手洗い場が、みんなを待っています。
- 3 「世界のタイル博物館」の外壁と空。今年もツバメの成長を見守りました。
- 4 みんなでシャボン玉を飛ばそう (06P参照)

## 01 【特集】 ライブミュージアム 植物図鑑

### LIVE REPORT

開催報告

### 06 ライブミュージアムで 夏の庭仕事体験

みんなでシャボン玉を飛ばそう

保全工事レポート1

### 07 INAXライブミュージアム10周年特別展「つくるガウディ」第2弾 「完成! 常滑ガウディ」展

オープニングイベント

伊東豊雄 特別講演「一本の木から学ぶこと～ガウディの教え～」

染付古便器 コレクション展

### LIVE SCHEDULE

これからの催し

### 08 [光るどろだんご全国大会10回記念企画]

企画展「『土』見本帖 ～Sourcebook of Soils」

どろの遊園地

光るどろだんご全国大会2017

光るどろだんご大会2017 in セントレア



※※ 特集 ※※

# ライブミュージアム 植物図鑑

ライブミュージアムには、数えきれないくらいたくさんの種類の植物があります。常滑の粘土質の土、そして強い風が吹き、夏に雨が少ないという風土にあわせて、園芸植物だけでなく、いわゆる「雑草」も楽しめる庭をめざしているからです。足元の小さな植物にも目をやりながら、ミュージアムを散策しませんか？ 新しい発見があるかもしれません。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1 カシワバアジサイ |       |
| 2 マツバギク    | 3 シラン |



ライブミュージアムに吹く風 1



## 「ブランド・アイデンティティ」を考える

INAXライブミュージアムは(株)LIIXILが運営する文化施設です。先日、来館者アンケートをしたところ、「LIIXILを知っている」「CMを見たことがある」方は約9割いらっしゃいました。しかし「ライブミュージアムがLIIXILの文化施設であることを知らなかった」方がおよそ半数。つまり、施設に「INAX」と謳っているのに「INAXは知っているし、LIIXILも聞いたことがある。でもINAXがLIIXIL傘下のブランドであることは知らなかった」ということでしょうか。企業博物館としてはデリケートな課題で、「LIIXILライブミュージアム」にすればよいという単純な話ではありません。

INAX(旧伊奈製陶)創業からのものづくりの精神を継承するミュージアムとしては、開館10年を経て、あらためてアイデンティティを考えるこの頃です。

虫鹿元博(「LIIXIL」広報部門グループリーダー)



14 ガウラ

16 ハコネウツギ

(箱根空木) 5月～6月  
1本の木に咲く花が、最初は白、薄いピンク、紅色と変わる。一つの枝で3色の花が同時に見られるのが楽しい。

17 テイカズラ

(定家蔓) 5月～6月  
絡んだ蔓のなかにプロペラのような小さな花が咲く。式子内親王を愛した藤原定家が、内親王の死後も妄執にとらわれ、内親王の墓に絡みつくとという能の演目「定家」に由来する名。

13 ヤマボウシ

(山法師) 5月～6月  
瑞々しい緑の葉が出た後、枝のてっぺんに上を向いて咲く。白い花びらに見えるのは、実は蕾を包んでいた葉。さわやかさが、街路樹やシンボルツリーとしても人気。

14 ガウラ

5月～9月  
白花は白蝶草、赤花は山桃草。ミュージアムのガウラには自家交配で淡ピンクになったものも。4枚の花びらが蝶のよう。

15 モミジアオイ

(紅葉葵) 8月  
花びらも、雄しべ・雌しべも真っ赤な夏の花。一日花ですぐしぼむので、見ることができたら、ラッキー。



15 モミジアオイ



17 テイカズラ



16 ハコネウツギ

8 ソシンロウバイ



9 リキュウバイ



10 マンサク



11 ベニバナトキワマンサク

10 マンサク (万作) 3月

11 ベニバナトキワマンサク (紅花常盤万作) 4月  
葉も出ない枝に、ちょっと不思議な花を咲かせるマンサク。その花が終わる頃、鮮やかなピンクのベニバナマンサクが咲き誇る。黄色からピンクへ春が移ろいでいく。

8 ソシンロウバイ

(素心蠟梅) 1月  
花びらの一枚一枚が透き通り、蠟細工の梅のようだというのが名の由来。

9 リキュウバイ

(利休梅) 4月  
薄いレースのような繊細な花びらは、ぜひ近づいて見てみよう。



12 ギンバイカ

12 ギンバイカ (銀梅花) 6月  
開ききる前は梅に似ているが、咲くと、長く真っ白な雄しべが現れて個性的。ヨーロッパでは結婚式のブーケに使うことも多く「祝いの花」と呼ばれている。

真っ先に季節を覚えてくれる

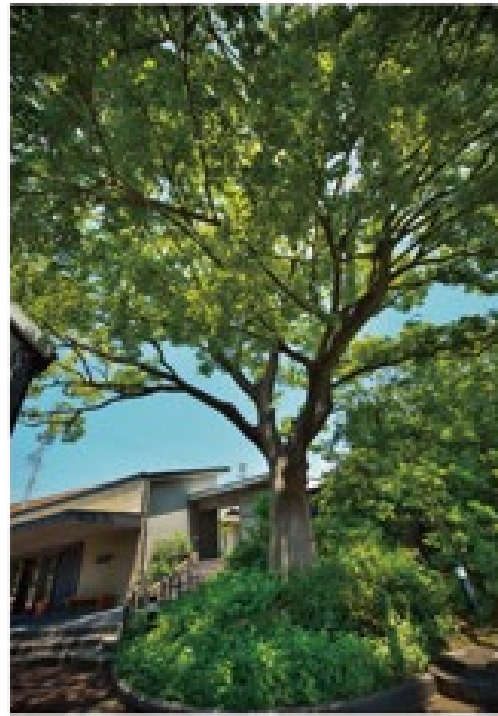
年が明けて、真っ先に咲くのはソシンロウバイ。枝に小さな黄色い花をたくさん付けて、冷たい風のなかでも確かな春の訪れを告げています。スイセン、サンシュユ、マンサク。早春の花々が咲き始め、やがて植物は競うように緑を伸ばし花を咲かせ、ライプミュージアムを包み込んでいきます。

5 ドクダミ・ツルニチニチソウ

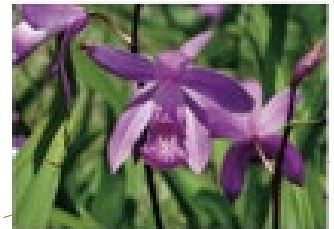


雨が降ると表土が削り取られて弱っていたエノキ。土を柔らかくし、低木やドクダミ、ツルニチニチソウといった下草で根元をカバーして、雨水が浸透するようにしました。同じく足元にあるシランは日本や中国に分布するランの仲間。小さな花ですが、近寄って見ると、立派なランの顔をしています。

4 エノキ



3 シラン

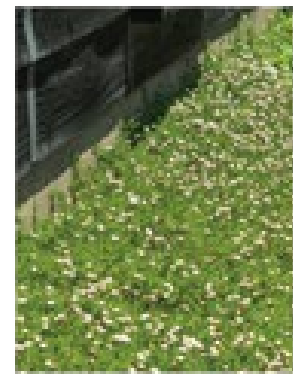


いちばん古いエノキの大木。樹齢はわかりません。「窯のある広場・資料館(1986年開設)」が現役で土管を焼いていたときには、大煙突から昇る煙を見ていました。弱ってしまったこの木を大切にすると、ところからライプミュージアムの庭づくりはスタートしました。

煙の昇る大煙突を見ていた

足元の小さな植物に注目!

地面を覆うのは、見逃してしまいそうな小さな植物。「雑草もなるべく抜かない」と言うのは、庭師の岡佐紀子さん。雑草があれば土が乾燥しにくいし、根っこの力で土の状態を変えてくれるのだとか。伸びてきたら、風の道を作るように、優しく刈ってあげます。



6 ヒメイワダレスウ

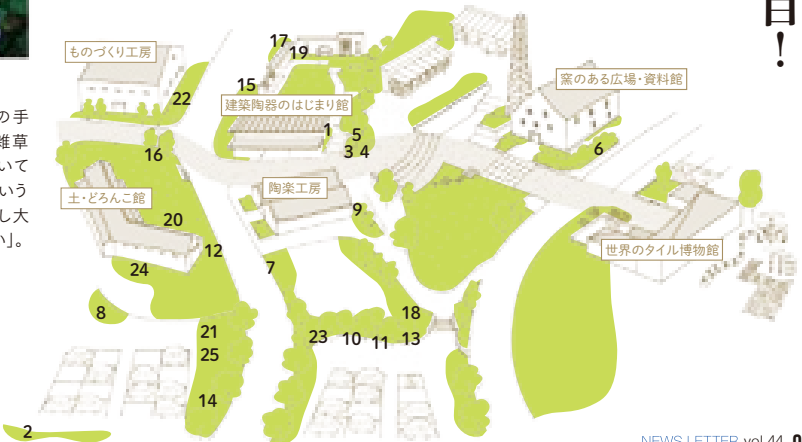


7 ヒメツルソバとシダ



長野県安曇野から庭の手入れに通う岡さん。「雑草でもかわいい花が咲いています。雑草は敵だというのじゃなくて、もう少しさらかな庭にしていきたい。」

☆印撮影 原健一さん (元ものづくり工房スタッフ)  
来館者から、花の名を聞かれたことがきっかけで、ミュージアムの花を調べ、写真を撮りHPに掲載し始めた。「花や木の名前を知ると、興味が広がりますよ。」





20 トケインソウ  
(時計草) 7月  
花の形を時計に見立てたのが名の由来。熱帯植物。子どもたちが走り回るどろんこ広場で、蔓を伸ばして咲く。

21 センニンソウ  
(仙人掌) 9月  
白い十字状の花が集まって咲く。花が終わった後の種に長い白毛が伸び、これが仙人の髭に見えるのが名の由来と言われている。



21 センニンソウ

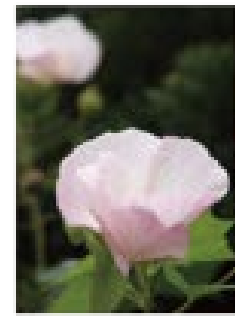


20 トケインソウ

19 アカサス



18 スイフヨウ  
(酔芙蓉) 8月～ 10月  
ピンクのフヨウが目につく夏のミュージアム。そのなかに一株、スイフヨウがある。朝は白く、時間とともに赤みが差し夕方方にはピンクに。酔って赤くなる様子を名前に重ねた。朝咲いて夕方しぼむ一日花。



18 スイフヨウ(右朝、左夕方)

## 白地藍彩タイル

オランダ  
17世紀～

チューリップは当時のヨーロッパで投機の対象になり、球根1個が熟練工の年収の10倍以上だったともいわれます。中国のやきもの影響で大流行していた白地藍彩のタイル。そこに描かれたチューリップが壁一面を飾る光景は、贅沢の極みだったに違いありません。



g



h

## イギリス 19世紀後半～

繁栄を誇り、新しい暮らしを謳歌するイギリスでは、中産階級を中心に家庭園芸も流行。写実的な植物のタイルは、植物を購入する際の情報源でもありました。転写紙で量産を図ったり、ウィリアム・ド・モーガンなどデザイナーが手描したタイルも登場しました。



l



m



n



k

## イズニック・タイル

トルコ

15世紀半ば～17世紀後半

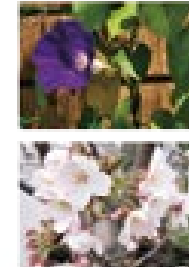
植物による唐草模様も多く、イスラームの伝統的な花であるバラのほか、カーネーションやヒヤシンス、チューリップ、スマイレなどがモチーフになりました。なかでもチューリップはトルコが原産で、17世紀にオランダに輸出され、園芸種が多数開発されました。

タイルに描かれた植物たち

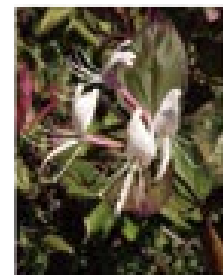


24 クレマチスアーマンディ(f,j)

22 アサガオ(e)



23 ソメイヨシノ(b)



25 スイカズラ(k)

g. チューリップ  
h. カーネーション  
i. チューリップ  
j. クレマチス  
k. スイカズラ  
l. カーネーション  
m. ユリ  
n. スマイレ



j



f

## テラコッタ

関東大震災(1923年)以後、煉瓦造から鉄筋コンクリート造へと変化した日本の近代建築。それを飾ったのがテラコッタでした。「テラコッタパーク」の国産のテラコッタ(自治省庁舎/1933年には、古代ギリシアですでにモチーフに使われていた「アカサス」(写真19)が見事に表現されています。

ミニージアムの植物を探そう  
ミュージアムの中にも、世界各国で、やきもののモチーフとして描かれた植物たちがいます。どうして、この花が描かれたのでしょうか。その一つひとつに、物語があります。

## 染付古便器

古便器は、明治時代に富裕層で広まった高級感あるやきものでした。染付は当時の流行り。欧米向けの輸出陶器と同じように、日本的な表現で植物が描かれています。



e



d



b



c



a

a. 黄蜀葵(とろろあおい)  
b. 桜  
c. 梅  
d. 牡丹

富貴の象徴。日本では平安時代から文様として用いられました。

e. 朝顔

f. 鉄線(英名:クレマチス)

原産は中国。日本には室町時代に渡来し、ヨーロッパには18世紀後半に紹介されたとされています。固くて丈夫な蔓を持つことから、結びつきを願って使われました。